



一般社団法人

こども女性ネット東海

Child & Woman Net TOKAI

誰一人取り残さない避難所運営

～管理・インフラ型～信頼と関係性の防災・減災へ～





1. こども女性ネット東海とは

一般社団法人こども・女性ネット東海の仲間



【代表理事】

秋山 則子（三重みなみ子どもネットワーク代表理事）

富田 正美（ハーレーサンタCLUB NAGOYA代表）

【執行理事】

藤岡喜美子（公益社団法人日本サードセクター経営者協会執行理事）

【理事・監事】

猪飼由美子（岡崎市民生委員児童委員協議会主任児童員）

伊東 世光（天使保育園園長）

神野左和子（NPO法人Kids&Mama NPO ねこのて理事長）

鈴田 愛（株式会社チャンスグループ代表取締役社長）

塚本 岳（特定非営利活動法人こどもNPO副理事長
東海・よさみプレパーク代表）

戸野 憲一（NPO法人オフィスマハロ理事）

櫻井 雅美（NPO法人smileydream理事長）

松本 永己（NPO法人あいちかすがいっこ理事）

森好佐和子（NPO法人にこっと）

大塚 久俊（大塚会計事務所）

【アドバイザー】

五十風ゆかり（聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授）

田村太郎（一般財団法人ダイバーシティ研究所）

豊蔵勇（ジオ・とよくら技術士事務所）

【エリアマネージャー】

三輪宮子（犬山市）

松本永巳（春日井市）

小林なぎさ（名古屋市）

櫻井雅美（武豊町）

荒木歩（岡崎市）

大場直子（田原市）

中川真由美（伊勢市）

森好佐和子（犬山市）

石井直子（春日井市）

中井恵美（名古屋市）

青山晃子（岡崎市）

鈴木庸子（蒲郡市）

西山佐和子（松阪市）

中川真弓（伊勢市）

日頃から「困ったこと」をなんとかしよう
として、組織をつくり活動している仲
間が繋がり、災害時のことを本気で考
えようとつくれた組織

一般社団法人こども・女性ネット東海の目的と活動

【目的】

こどもの権利を保障し、こどもと女性の人材育成に努め、こどもと女性の主体的な参画と多様で多彩な主体者による連携・協力により、新たな地域のコミュニティを醸成していくことを目的とする。



【活動】

緊急時・災害時声を上げにくい妊婦・乳幼児・こども・女性の命を守るために、日ごろより防災・減災の活動等「**たすかる**」活動を行う。

また、被災地も含め「**たすける**」活動を行う。



たすかる犬



たすける犬

【私たちの活動は】

被災地外の災害NPO等によるレスキュー的な活動ではなく

日頃から活動しているNPO等や専門家・行政がつながり、質の高い活動を行い、災害発災後も、できるだけ早く日常に戻すための活動です。**フェーズフリー**

そしてこどもと女性が主体的に地域づくり、まちづくりを行っていくことを応援します。

一般社団法人こども女性ネット東海 (CWNT) の活動



3つの活動の柱

1. 女性防災リーダー育成とネットワークづくり
2. 任意の小規模避難所開設支援とネットワークづくり
3. 官民連携の新たな地域防災の仕組みづくり

1. 女性防災リーダー育成事業

<目指す姿>

女性が支援される側だけでなく、主体者となり、近助、共助が重要であることを深く理解し、平常時の備えだけでなく、避難所や仮設住宅等での生活、復旧・復興過程等においてリーダーとして責任ある判断をし、行動している。

養成講座、ステップアップセミナー、寄り添い支援
私たちは無力ではない微力である。

自分サイズ、自分スタイルで個々が自律して活動し、
仲間とつながる

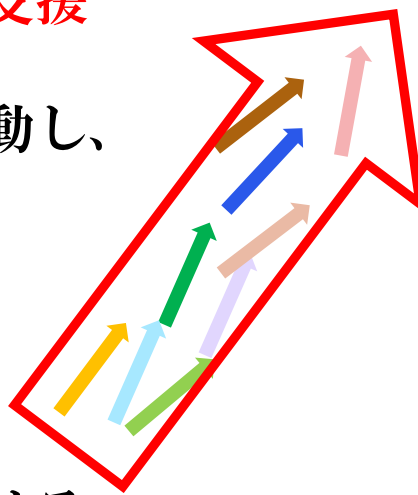


組織と組織がゆるやかにつながる



目標をいつも確認し

目標に向かい個々個人や組織のベクトルを合わせる



一般社団法人こども女性ネット東海 (CWNT) の活動

2. 小規模避難所開設支援とネットワークづくり

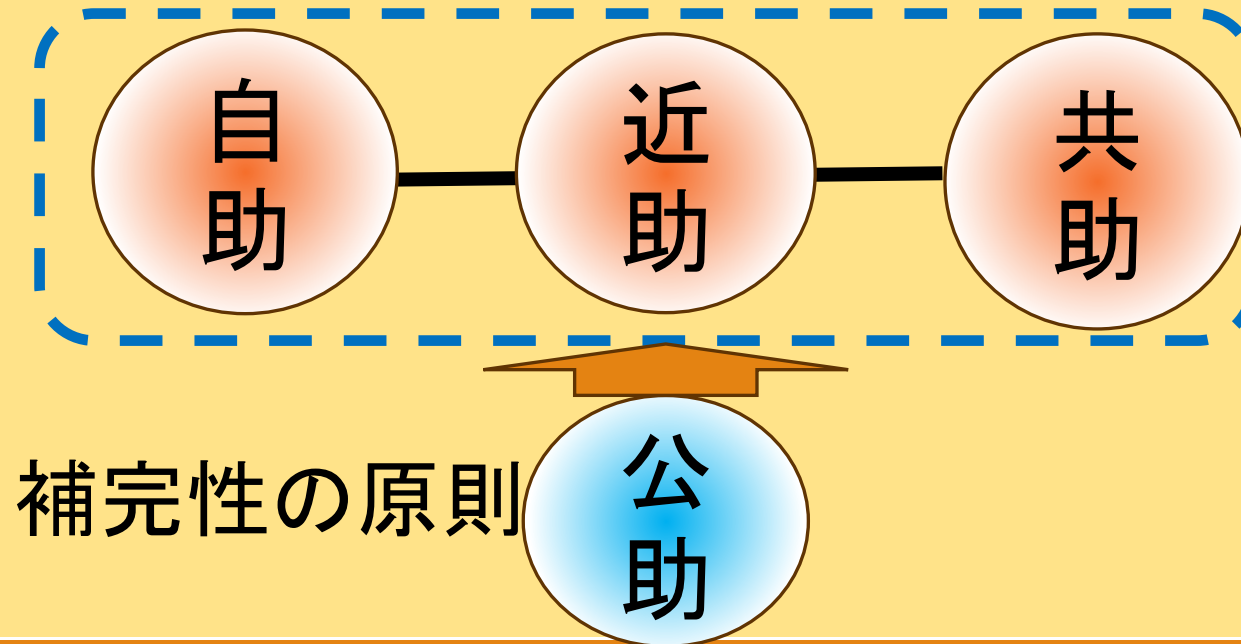
避難所は安全だけでなく、人による安心をつくることが大切です。コミュニティの「ちから」です。同じ地域で暮らすという場のコミュニティだけでなく、日頃よりアレルギーのあるこどものコミュニティ、発達障害のあるこどものコミュニティ、外国人のコミュニティなど、共通の課題を持つ人々が多様なコミュニティを形成しています。



無料配布中
HPからダウンロード

3. 官民連携の新たな地域防災の仕組みづくり

地域防災の仕組みそのものを変えます。男性だけでなく女性もこどもも配慮対象者であり、主体者です。誰もが災害を自分事とし、日頃から「困った」をほっておくことができない女性防災リーダーズが、地域で繋がり、市区町村を超え、さらには県域を越えて繋がり、互いに切磋琢磨し新たな官民連携の地域防災の仕組みをつくります。





任意の小規模避難所開設支援 と ネットワークづくり

事業の背景、社会課題



- ・ 地域住民の災害時対応力が減退し先細る「自助」
- ・ 高齢化率の上昇、高齢者のみ世帯の増加で「要支援者」は増加
- ・ 若者の減少
- ・ 消防団や自主防災組織の弱体化で「支援者」は減少
- ・ 災害の多発と基礎自治体財政の収縮で心許ない「公助」
- ・ 福祉避難所の不足（指定しても災害時開設されないこともある）
- ・ 基礎自治体は災害の多発で財政の面でも人員の面でも困難に
- ・ 多様な被災者への配慮にける対応が現状
- ・ 避難所運営は男性が中心 → 女性やこどもへの配慮が欠けがち



新しい仕組みの必要性

公的避難所を補完する任意の小規模避難所の必要性

大規模被災地から学ぶ 熊本地震では 自主避難所の開設



熊本県内ではピーク時で、

- ・約900か所の避難所が開設、
- ・18万人を超える住民が避難し、
- ・避難所生活は最長7ヶ月も続いた。



＊この中には**車中泊、小規模の公民館、公園等**を含む自主避難、
在宅避難者の**正確な数字は反映されていない**。

＊自主避難所はピーク時は、**約700か所**あった。

そこには多くの課題があった。

(こども女性ネット東海調査)

能登半島地震でも 自主避難所が開設された



珠洲市 蛸島小学校は被災者でごったがえし、近くの廃園になった蛸島保育園を自主避難所として避難生活を送った。

飯田地区でも廃園になった保育園で避難所が開設された。
女性の館長がきめ細かな避難所運営をしていた。

珠洲市や輪島市のビニールハウスでも自主避難所が開設された。





能登半島地震 自主避難所の開設

能登半島地震では「指定避難所」に大勢の人が避難して過ごせるスペースがなかったり、道路が寸断されてたどりつけなかったりしたため、地域住民が別の場所に「自主避難所」を立ち上げた。

石川県によると、被災した13の市と町には1月21日の時点で避難所が327か所あったが、「自主避難所」は175か所と半数以上にのぼった。



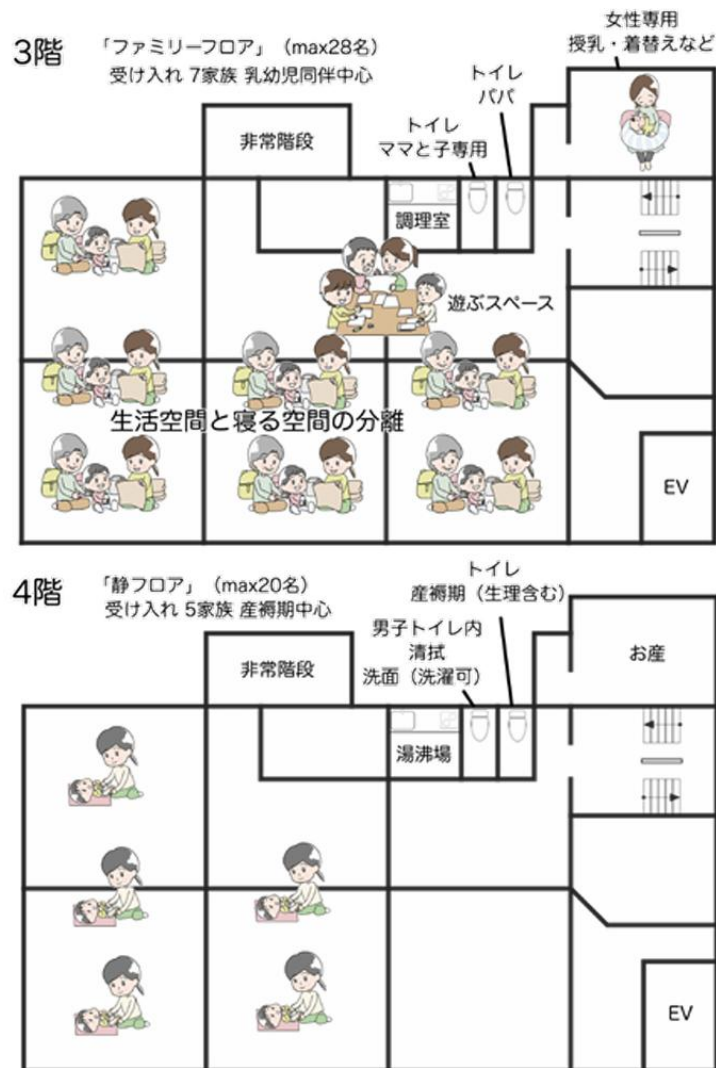
これからの避難所は小規模多機能へ

普段からコミュニティの中心となっている施設が、災害時に避難所となることが理想的

保育園、放課後児童クラブ、放課後児童ディサービス、ディサービス、就労支援施設、日本語教室など

コミュニティとは同じ地域で暮らしているということだけでなく、アレルギーのあるこどもを持つ親のコミュニティ、発達障害のこどものコミュニティ、外国人のコミュニティなど、共通の課題を持つ人々が多様なコミュニティを形成している。

任意の小規模避難所のイメージ（宿泊型）



特定非営利活動法人あいちかすがいっこ

災害発災時、代表の松元(あいちかすがいっこ代表)の自宅は徒歩 10 分圏内

スタッフの小菅(看護師)も自宅が徒歩 30 分圏内

助産師の梅木 は、交通網が途絶えた際は自転車でも 来ることができる。

災害対策本部に入る後藤会長と現在情報共有し、準備をしている。

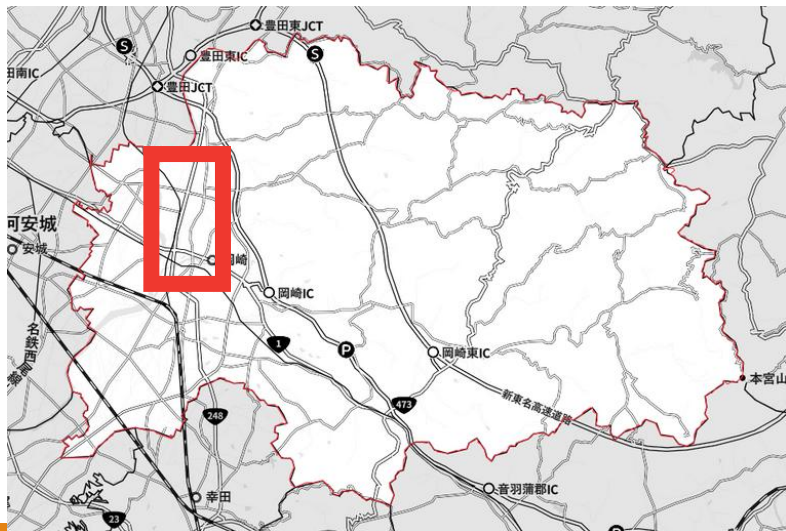
任意の小規模避難所ネットワークのイメージ（岡崎市）



1人ではできないことでも

チームの仲間と一緒に頑張れる！

協定を結んだ岡崎市と連携・協力、さらに地域
や企業・学校と連携、新しい官民連携の仕組み
をつくり、地域防災を私たちの手で変える



今のままでよいのか！！避難所

日頃のコミュニティの場所でみんなで助け合い、安全だけでなく安心な避難生活を、ひとり一人の様々な困難に寄り添う多様な主体者による任意の小規模避難所の開設とネットワークづくり

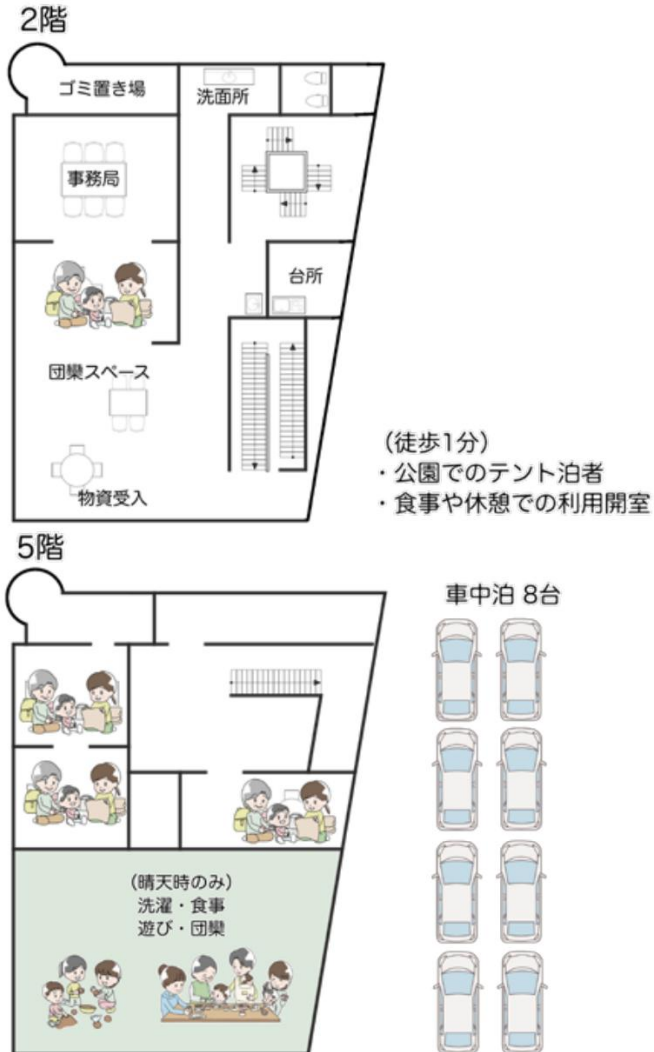


西尾・犬山・東三河チームとの連携

名古屋・春日井・三重チームとも広域で繋がる自律している仲間の組織が重層的に繋がり、機敏に柔軟に効果的に動くことができる。



任意の小規模避難所のイメージ（宿泊型）



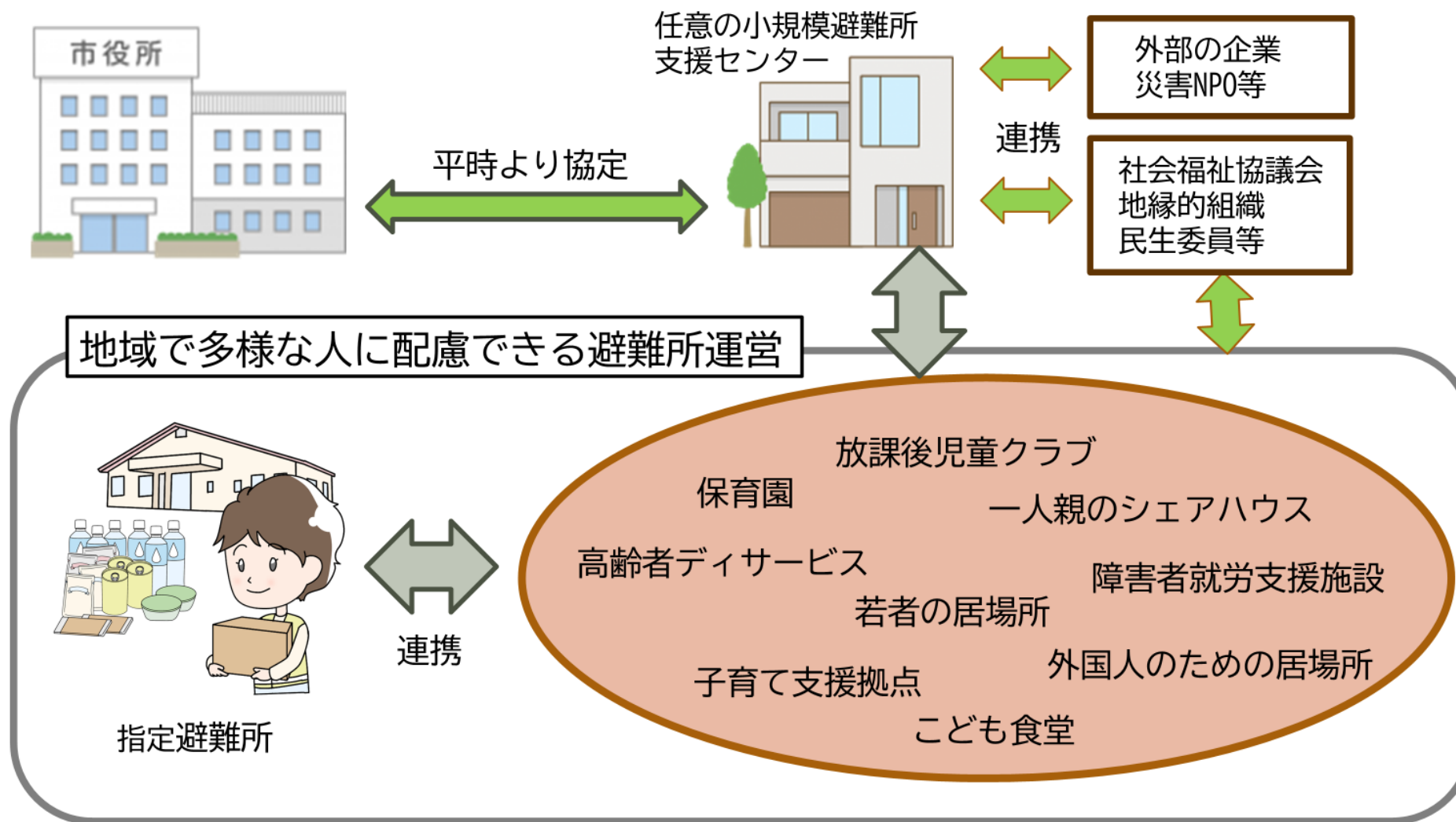
一般社団法人 こどもと暮らすiiねっと

リーダーは福島から避難してきている。
ワーキングスペース付託児室「みんなのおうち連尺」
鉄筋コンクリート造の5階建てビル
2階に託児室、ワーキングスペース
5階はワーキングスペース
認可外保育
一時預かり
こども食堂

「できることをできる人ができる時に！」「日頃から『こども』を真ん中に」
日頃から共助できる場所として周知されている。
こどもと暮らすことの延長にある避難所



任意の小規模避難所のネットワークづくり





ファーストミッションボックス

避難所に集まった住民自らが早期に避難所を開設できるように、初めに（ファースト）やるべき任務（ミッション）を記載した手順書と最低限必要となる資材を入れた箱（ボックス）が「ファーストミッションボックス」です。手順書は、「誰でもできる」、「みんなでやれる」をコンセプトとし、避難所について詳しく知らない方でもわかりやすく具体的な手順をかきます。



避難所は自主運営が前提
任意の小規模避難所バージョンをつくっています



任意の小規模避難所を開設の準備をしましょう



従来のインフラ中心の専門性でなく
日頃の活動の専門性が大切

たとえば

安全だけでなく安心をつくる保育士の専門性

食べること、遊ぶこと、寝ること、休むこと
保育士は「安心」をつくることができる

つまり

日頃のよい保育が災害対応になる



BCP（事業継続計画）との連動を考える

福祉サービスの事業再開に向けての課題

- ・ 災害発災後、スタッフが他地域に移動し、就職をする。
- ・ 利用者が他地域に移動する。
- ・ 特にこどもがいなくなると復興は難しい。

- ・ ライフラインの復旧
- ・ 施設の修繕
- ・ 物資の補充



だけではない

スタッフと利用者
が大切



こどもと女性が支援される側でなく
主体的に日頃から活動し、
発災後の避難生活もこども・女性目線であらゆる工夫を行う。

さらには

こどもと女性が仮設住宅での生活、その後の復興過程において生じかねない危機と被害を回避できるように提言し、行動することで
一人ひとりに優しい目線で

誰一人取り残さない災害対応が実現できる。



一般社団法人

こども女性ネット東海

Child & Woman Net TOKAI

ご清聴ありがとうございました

